

展開

2年生の数学は、式の展開でした。中学校では4つの乗法公式を基本として学びます。

$$(x+a)(x+b) = x^2 + (a+b)x + ab$$

$$(x+a)^2 = x^2 + 2ax + a^2$$

$$(x-a)^2 = x^2 - 2ax + a^2$$

$$(x+a)(x-a) = x^2 - a^2$$

この公式を導くための考え方について学んでいました。

実は3年生の範囲。3年生への準備が始まっています。



3月9日 落語家 柳亭こみち 師匠をお招きして、落語会を開きました。こちらは噺の“展開”を楽しみます。師匠は、会場の雰囲気を柔らかくするために、自己紹介。様々な番組に出演していることを知ります。落語の階級や、太鼓、お囃子の説明。3年生が舞台に呼ばれ、実演をしました。扇子を使い、そばをすすり上げる場面を演じました。続いて本に見立てた手拭いを読む場面を。なんとその内容は“校長先生の知られざる秘密”真に迫る芝居に、なぜか不安になる私がありました。それとも、私は演ずる生徒のファンになったのか？ 演目は古典落語“火焰太鼓”でした。



1年生の英語の授業では、英語圏のレストランで使うフレーズについての学習です。教科書で注文を中心とした店員さんとのやり取りを学び、続いて、実際にそのフレーズを使う展開に。担当教師お手製のメニューを用いて、ペアワークです。一方が客、他方が店員をやりました。語学は実践を積むことが大切です。



試合展開を楽しむ学年もあります。3年生は球技大会を行っていました。サッカーとドッジボールに分かれて闘いました。受験で鈍ったとは思えない動き。観客を興奮させる展開です。どちらの競技もパスを展開し得点につなげるチームが清中 天下い ちを取りました。



2年生の道德では、題材「一杯のミルク」を英語部が演じました。貧しい少年ハワードがお菓子の訪問販売で家計を助けている。空腹で倒れそうなときにイタリアから移住してきた方に巡り合う。「お菓子は買えないけれど一杯のミルクを」と差し出してくれた。ハワードはポケットの中にある数枚のコインを渡そうとする



るが彼女は受け取らなかった。舞台は20年後、彼女が重病で倒れ、地元の病院では手の施しようがなく、都市の大病院へと運ばれる。退院の日に高額が予想される請求書をみると、そこには「ミルク一杯で支払い済み」と。劇的な展開です。彼女に手術を施した医師が誰であるか、もうお分かりですね。さらに、途中イタリア語でカンツォーネ「O sole mio (オー・ソーレ・ミオ)」の熱唱。全編、英語によるセリフにイタリア語も交え、3人ですべての役を演じ切ったことに敬服です。

3人でありながら、観劇者に場面を想像させ、演じ切る。見事でした。時として一人何役もやらねばなりません。落語に通ずるところがあります。柳亭こみち師匠は落語について語ります。

「落語は、扇子と手拭い以外に何もない。『何もないということは、全てあるということ。』」

物に溢れ、与えられることに慣れてしまった世の中に投じられた言葉に聞こえてきました。

何もないから創造という展開が始まります。